簡潔性と蓄積性

日本の技術と蜘蛛が似ているという話を聞いたことがある．蜘蛛は補食生物としての進化の一つの究極点にあり，現在の形態からこれ以上どうにも進化できないという．日本の技術も同様の危険性があるのではないかという論評であった．大戦中の零式戦闘機もしかり．八木アンテナもしかり．技術的に非常に優れたものを生み出すが，どのように手を加えようとしても性能が落ちてしまう技術というものがある．職人芸とでもいうべきもので，なぜその性能が得られるのか客観的な説明ができない．もちろんよいものを生み出すのは重要なことである．しかし自然言語の多様性と複雑性を前にする時，この警鐘は大事に聞かなければならないと思う．

簡潔性と蓄積性を常に研究の中心においてきた．真理は簡潔なものに違いない．どんな複雑に見える現象も簡潔な真理の積み重ねで説明できなければならない．一種の思い込みであることは確かだが，簡潔でないものは最終的な姿ではないのだろうと思う．

自然言語の理解には様々な知識や処理が複雑に絡み合っているのは言うまでもない．一方，従来の形態素処理，統語処理，意味処理，文脈処理を統合したシステムの重要性が強調され，当然のことのように受け入れられているが，統合の方法が重要なのだと誤解してはならない．重要なのは統合を視野に入れた処理の分離および抽象化である．自然言語理解に参画するすべての要因を考慮したシステムを最初から一気に作ることは到底できない．統合のために特別の細工や苦労をする必要のない抽象化が重要な課題であり，それこそが真理を語る簡潔な原理なのだろう．それは他の真理とも自然に共存するもので，他の処理と統合が容易というよりはそもそも統合に問題を持つものではない筈である．先に述べた蓄積性とは，このことを指したつもりである．

当たり前のことを述べているようでお恥ずかしいが，自戒の念も込めて書かせていただいた．真理という高尚なものでなくても，自分の研究において何を前提として仮定し，どのような問題をどこまで明らかにしたいのか，他の領域や次のステップとどのようにつながっていくのかを常に意識し，蓄積性のある仕事をしたいと思っている．日本語でも共通に利用可能な言語データの量が飛躍的に増えつつあり，これらとも真摯に向き合っていかなければならない．今後どのような簡潔な成果が蓄積されていくか楽しみである．

松本裕治
奈良先端科学技術大学院大学